

農林水産省登録 第19325号

**使用方法**

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ネマデクチンを含む農薬の総使用回数
まつ (生立木)	マツノザイセンチュウ	<b>胸高直径(樹幹部)</b> 10~15cm ..... 40ml 15~20cm ..... 40~80ml 20~25cm ..... 80~120ml 25~30cm ..... 120~160ml 30cm以上は直径5cm増すごとに40mlを順次増量	マツノマダラカミキリ成虫発生3ヶ月前まで	1回	樹幹部に注入孔をあけ、注入器の先端を押し込み樹幹注入する。	1回

**▲ 使用上の注意事項**

- 本剤はマツノマダラカミキリ成虫によって伝播されるマツノザイセンチュウの増殖防止を目的とするもので、マツノマダラカミキリ成虫には効果はありません。
- 本剤注入後、薬液が樹全体に移行するのに、2~3ヶ月を要するので、本剤の注入時期はマツノマダラカミキリの発生する3ヶ月前までに行ってください。
- 本剤の残効期間は通常5年間ですが、樹種、樹齢、樹勢、生育場所、気象などの各種条件によって変動するので、再注入時期については林業関係機関等の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤は治療効果が無いので、樹脂流出に異常を呈している松や枝葉が変色した松には使用しないでください。
- 見かけ上の胸高直径に比べ材積量の少ない庭園松や矯正された松、また移植後3年以内の松等は樹勢が弱いため使用しないでください。
- 薬剤注入孔は直径6mmのドリルで地上1m前後の樹幹部に斜め下方に向けて深さ4~5cm程度の孔とし、大きな節や横枝の直下は避けてください。
- 注入孔を開けたら直ちに注入器の先端を折り速やかに孔にねじ込み、薬液がもれないように深く挿入してください。注入器の底部の凹部に目打ちで穴を開け、自然圧で薬液を注入するので押したり圧を加えたりしないよう注意してください。
- 薬液がまつの形成層にふれないように十分注意して作業してください。
- 一樹に複数の注入器の使用する場合は注入孔を樹幹の周囲に分散させて注入してください。
- 薬剤の注入は晴天の日を選んで日中に行うことが望ましいです。
- 薬剤注入量は樹幹の胸高直径の大きさによって増減してください。  
注入の終了した孔は、ゆ合剤、コルク栓等で充填または蓋をし、雨水や雑菌等が侵入しないように処置してください。
- 薬液が完全に注入されたことを確認後、空容器は速やかに回収し、環境に影響を与えないよう適切に処理してください。注入終了までに要する時間は樹齢、樹勢によって異なるので注意してください。早いもので1時間以内、遅いものでも3時間程度で完了します。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面に注入液が付着すると変色する恐れがあるのでこぼさないよう注意してください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法など誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、林業関係機関等の指導を受けることが望ましいです。

**▲ 安全使用上の注意**

- 誤飲などのないようご注意ください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないようご注意ください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも散布当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意してください。
- 空容器は必ず回収し、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管: 火気や直射日光をさけ、食品と区別して冷涼な場所に保管してください。

☆ラベルをよく読む。 ☆記載以外には使用しない。 ☆小児の手の届く所には置かない。

**きめ細かい  
サポート体制**

(株)理研グリーンは技術バックアップサービスで、お客様をサポートします。  
詳細は販売員におたずねください。  
①マツノザイセンチュウ検査 ②樹体内濃度検査 ③施工法のご紹介と演習  
(有料です)

# MegaTop<sup>®</sup> メガトップ<sup>®</sup>

**注入量が少なく 加圧不要で速く入る  
きっちりと効く 長く効く  
廃棄容器も少量で環境にやさしい  
「普通物」のMegaTop<sup>®</sup> 液剤をお試ください**

「普通物」医薬用外劇物の指定解除(2010年12月)  
「残効5年」林業薬剤協会試験結果



®は株式会社理研グリーン登録商標

## 松枯れ防止・樹幹注入剤

製造販売元 **株式会社 理研グリーン**  
〒110-8520 東京都台東区東上野 4-8-1 TIXTOWER UENO 8 階  
TEL.03-6802-8571 FAX.03-6802-8577  
http://www.rikengreen.co.jp

(株)理研グリーン・パートナーショップ

札幌駐在 TEL.011-595-7401 FAX.011-595-7402 大阪支店 TEL.06-6871-1691 FAX.06-6871-1811  
仙台支店 TEL.022-222-9599 FAX.022-267-6505 福岡営業所(大阪支店にて代行受付)  
東京支店 TEL.03-6802-8943 FAX.03-6802-8953 グリーン研究所 TEL.0538-58-1282 FAX.0538-58-1714  
静岡支店 TEL.054-283-0691 FAX.054-291-4261 福田工場 TEL.0538-55-5108 FAX.0538-55-5104  
名古屋支店 TEL.052-218-3060 FAX.052-218-3061









#### 4. 施工の手順

- ① 予め対象となるマツの胸高直径(BHD)を測定します。専用メジャーがありますので弊社販売店などにおたずねください。
- ② 上表を参考に「施工表」を作り、マツ毎の注入量と使用するボトル規